

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15



水百廿花譜

第十四輯

大正  
10.11.17  
丙午

始





ふち(藤)

學名 *Wistaria chinensis* DC. var. *multijuga* Hook. fil.

異名 野田藤

英名 *Wistaria, Loose-climber Wistaria.*

科名 豆科 (Leguminosae)

花言葉 歓迎 異らしき客

山野に自生する纏繞性木本にして他物に巻絡して數十尺の高さに達す。葉には多数の導管を有し、切斷すれば明に見るを得るが故に多くの裝飾用又は細工用として用ひらる。互生せる葉は通常十七乃至廿一個の卵形小葉よりなる奇數羽狀複葉にして深綠色平滑なれど幼時には微少なる毛茸を以て覆はる。四五月頃紫色の美しい蝶形花冠を總狀花序をなして開く。一個の花は小なれども一花房となれば頗る大きく普通二三尺に垂下すれど園藝品に至りては六尺に達し、百個以上の花を着生するものあり。品種として紫の他に白花、八重花等ありて紫色のものは右方に旋回して纏繞し、白色種は左方に旋回するの性あるが故に開花せざるも容易に花色を判定し得べし。花後葉を結ぶ、葉は長大にして硬く且つ毛茸を以て覆はれ、中に圓形基石の如き種子を藏す。種子は食するものあれど有害なりとも稱せらる。

備考

一、本種の産地として有名なるは攝州野田にして異名の野田藤も之に依て生ぜしなり。

一、本種の學名に *Kanukia horibouchi* (Willd) Traut. を用ふるものあり。

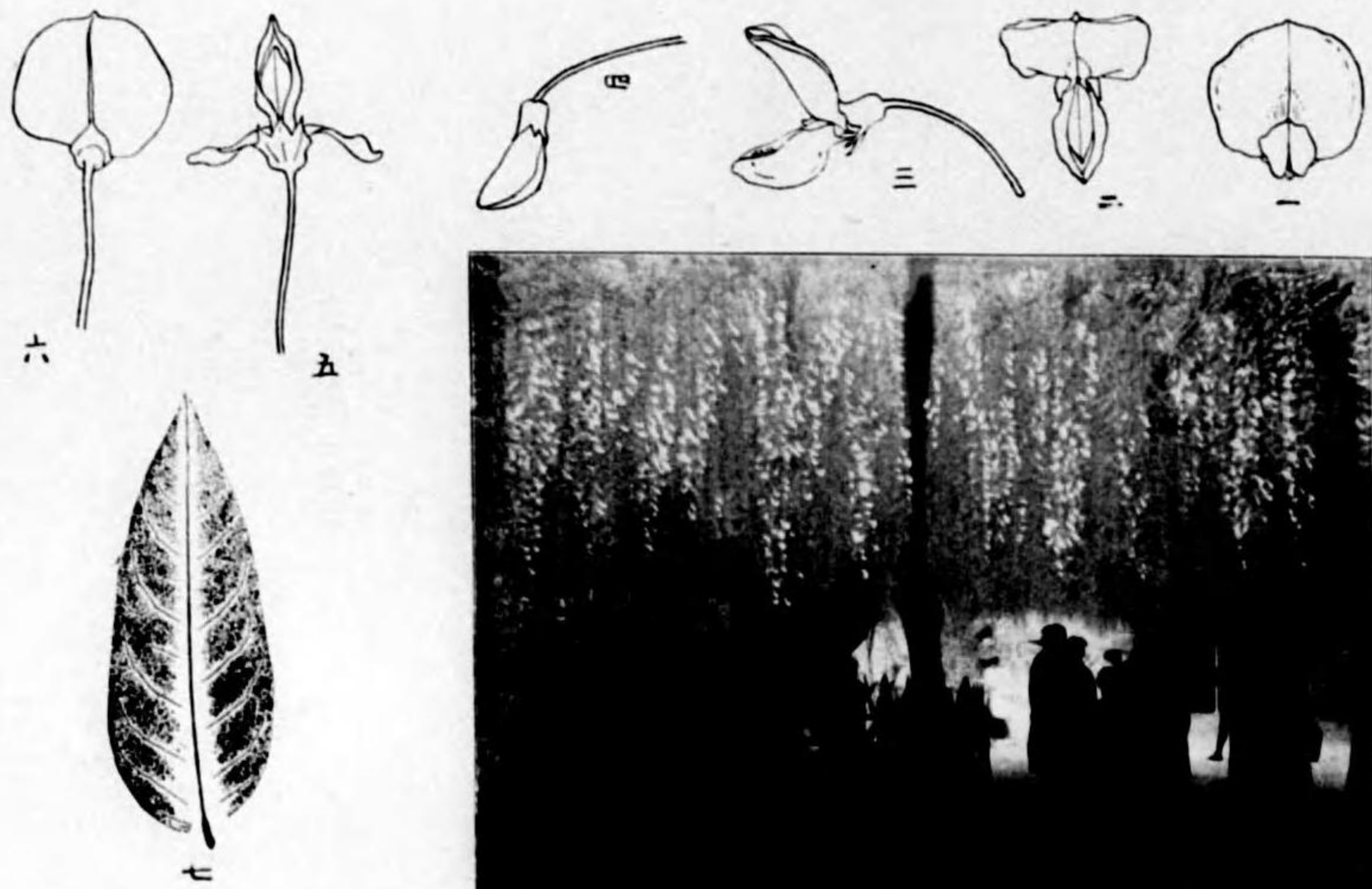
一、學名なる *Wistaria* は米國の教授 Dr. C. Wistaria 氏の名譽の爲に名附けられしものなり。

一、漢名に紫藤を當つるものあれども之は支那のものにして本邦種とは全然異れり。

本圖 大正十年五月二日東京に於て寫生 (自然大)

附圖 (一)花の正面、(二)花の上面、(三)花の側面、(四)蕾、(五)下面より見たる花、(六)花の背面、(七)印葉、(全部自然大)

寫真 柏壁の藤(撮影者及年月不明)



非水百花譜第十四輯目次

ふち(藤) (白粉花)  
おしろいばな (染井吉野)  
そめあよしの (熊谷野  
くまがいさう (蒼草)  
をけら (蒼草)







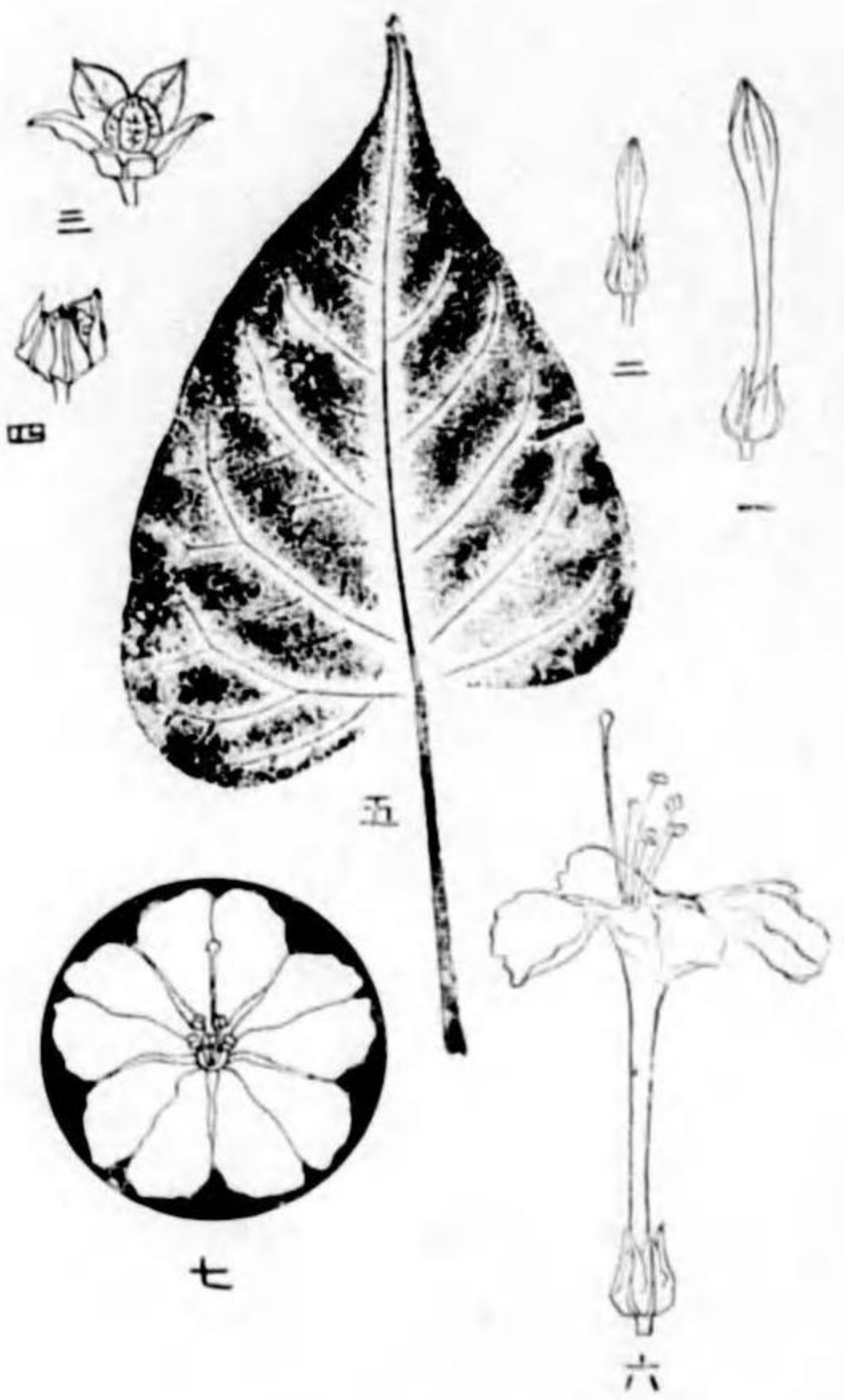
植物学  
 大正九年八月  
 東京  
 大正九年八月  
 東京  
 大正九年八月  
 東京

おしろいはな (白粉花)

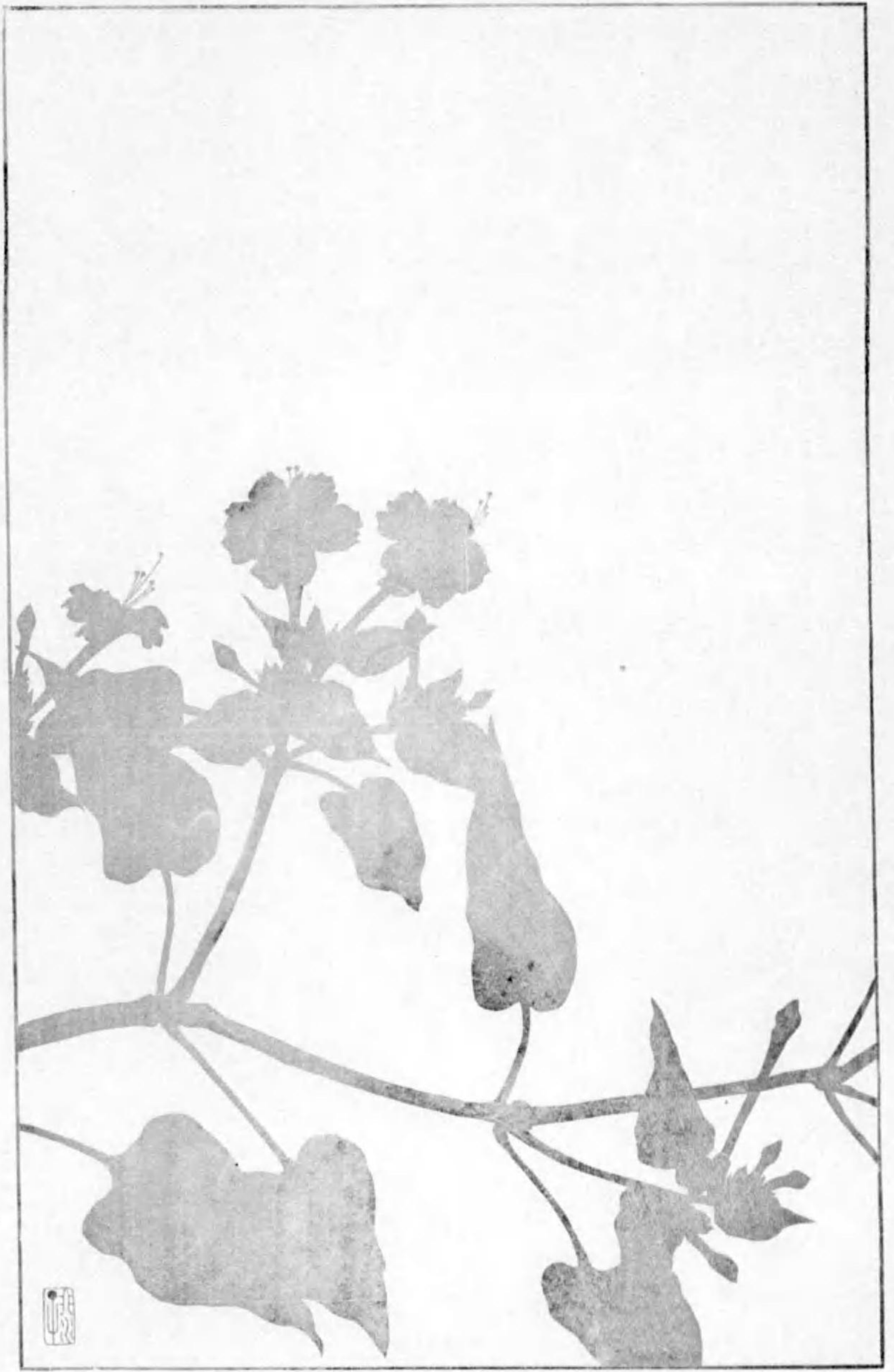
學名 *Mirabilis jalapa* L.  
 漢名 紫茉莉  
 英名 Marvel of Peru.  
 科名 紫茉莉科 (Nyctaginaceae)  
 花言葉 臆病、小膽

西印度原産の草本にして原産地においては宿根すれど本邦においては一年生にして年々子實に依り繁殖す。高さ二三尺に達し多くの枝を分ち生育、繁殖共に旺盛なり。葉は長卵形又は心臟形有柄にして對生し、葉には熱酸石灰の結晶なる針晶體を含有し各節部及び根節部は肥大せり。夏より降霜の候に渡り枝梢數花を散開す。花には紅、白、黄、紫等各色あれど吾人が普通花の如く思ふは實は花瓣にあらすして「花瓣を缺如す」單なる花被なりとす。而して此の花被は合一して喇叭狀をなし五本の雄管束は之を貫けり。又勢の如く見ゆるは總苞にして成熟するも宿存して杯形をなす。雄蕊五個は花口に出で短調にして測面に裂開し、黄色の花粉を多量に出す。雌蕊一個の柱頭は長く花喉部に出で瓶形をなして乳頭突起多く且つ紅褐色を呈せり。子房は上位にして二心皮より成り、前方は稍膨起すれど後方は扁平なる面を有す。胚珠は一個にして子房の基底に生じ前方の方に珠孔を有す。又子房は花被によりて包まれ、此の部の花被は膨大して球形をなし上部の喇叭狀をなせるものとの間には縮れを生じ、花被萎凋すれば此の縮れ目より脱落し球形部は宿存す、而して此の球形の花被は果の成熟するに従ひ漸次硬化し子房壁に密合せられ黒色を呈して所謂副生果をなせり。故に眞の果實は此の中において薄皮なる果皮を有する瘦果にして多數の白色粉質の胚乳を有し胚之を圍繞し子葉廣潤なり。

本種は主として觀賞用として栽培すれども前述の如く繁殖力強きものなれば往々雜草の如く自生せるを見る事あり  
 備考  
 一、學名なる *Mirabilis* は驚異を意味す蓋し初めて亞米利加に移入せられし時の感とならむと云ふ。  
 本圖 大正九年八月二十三日東京に於て寫生 (自然大)  
 附圖 (一) 三葉、(二) 四葉、(三) 果實、(四) 印葉、(五) 印葉、(六) 花の側面、(七) 花の正面、(全部自然大)  
 寫真 大正八年八月東京に於て著者撮影









白  
粉  
花  
西  
南  
林  
業  
發  
行  
西  
國  
郵  
政  
特  
許  
第  
一  
〇  
七  
九  
號  
西  
國  
郵  
政  
特  
許  
第  
一  
〇  
七  
九  
號

そめわよしの (染井吉野)

學名 *Prunus yedoensis* Maksum.  
 異名 よしのざくら  
 英名 Japanese Cherry.  
 科名 薔薇科 (Rosaceae)  
 花言葉 欺瞞、眩惑

幾多の櫻花中古來最も名高きものにして、伊豆大島に自生せるを幕府時代に染井の植木商が移植したるものなりと云ひ、よしのざくらなる異名はあれど大和の吉野とは全然關係を有せざるなり。高さ三十尺に達する落葉喬木なれど山櫻等と異り高さよりも寧ろ枝條は横に擴がるの性を有し幾分垂下するの傾きあり。樹皮は横に割目を生じ黄褐色の皮目を現はし且つ滑かなる皮面には多く灰白色の地衣着生す。花は葉に先ち出て出で三輪乃至四五輪宛展開し満開時には殆ど花を以て埋まるに至る、而して斯く満開に達するも葉を生ずる事なく落花するに及びて初めて葉の萌發するを見る。一個の花は直径一寸未満にして開花當初は櫻色を呈し芳香を發すれど満開と共に色も淡く香も減す。而して其の花梗に毛茸を有するが故に容易に他種と區別するを得べし。

本種は主として觀賞用に栽培せられ、東京近傍に名所多し。又大島にありては材を採り薪炭の用となすと云ふ。

備考

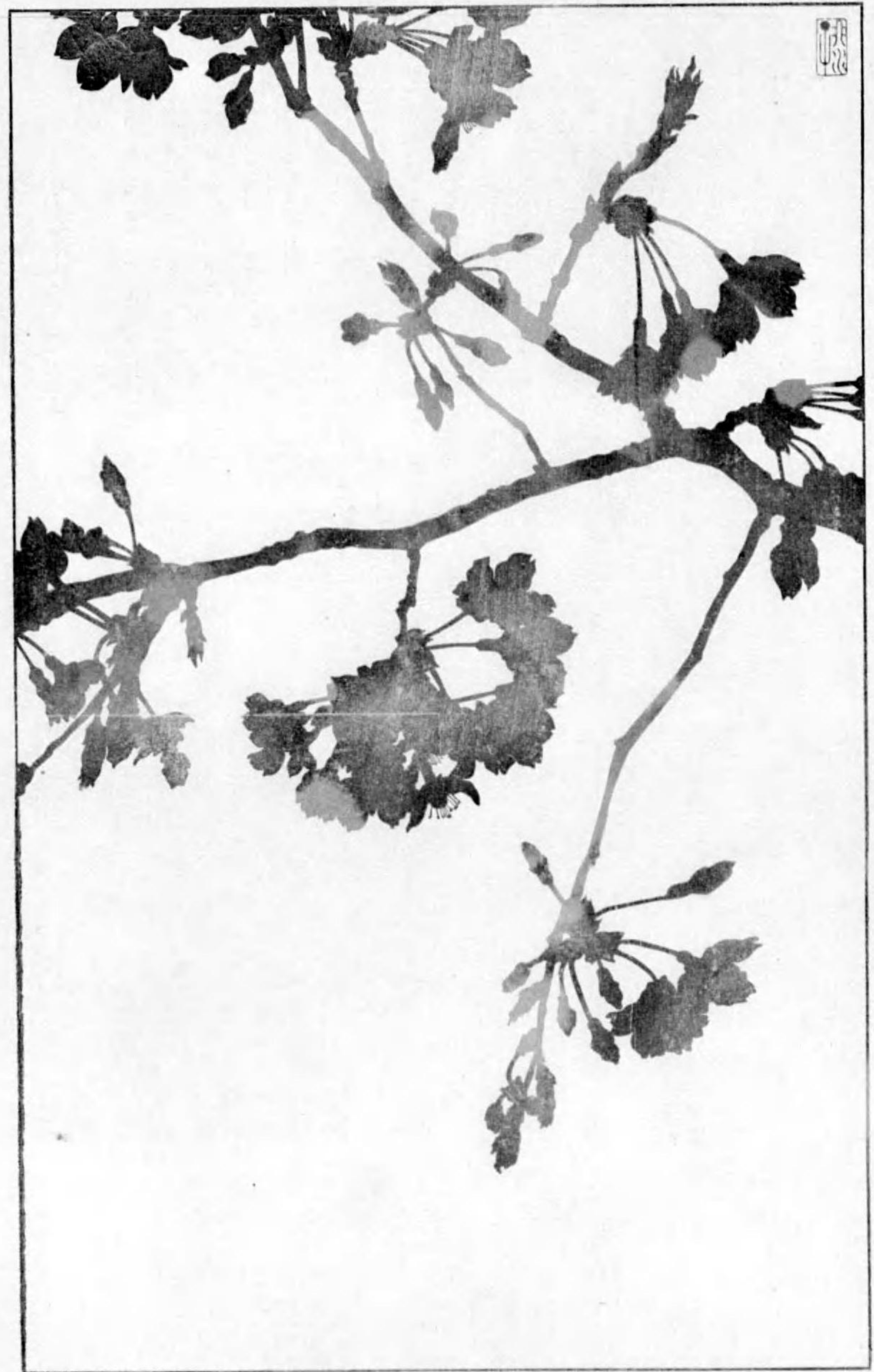
- 一、本種の形態、生理に關しては八重櫻の項を参照せられたし。
- 一、本種は頗る變化性に乏しく、爲に之が變種あるを聞かず。



本圖 大正八年四月五日於東京寫生(自然) 附圖 (一) 正面の花 (二) 側面の花 (三) 蕾 (四) 芽葉 (五) 葉 (六) 葉印  
 寫真 大正八年四月於高野園實業館攝影









野 齋 共 染  
 大 正 十 年 五 月 東 京 於 於 著 者 攝 影  
 大 正 十 年 五 月 東 京 於 於 著 者 攝 影  
 大 正 十 年 五 月 東 京 於 於 著 者 攝 影

くまがひさう (熊谷草)

學名 *Cypripedium japonicum* Thunb.  
 異名 ほていさう、くまがひさう。  
 漢名 鬼督郵  
 英名 Ladies Slipper.  
 科名 蘭科 (Orchitaceae)

本邦中部より北部に渡りて山陰林野の沃土に生ずる多年性草本にして往々東京近傍にても採集せらるる事あり。根は稍肉質にして數本葉端に着生し氣根を有せず。又地下莖を有し各節より葉を抽出せり。春期宿根せる葉より萌發するものにして葉は大なる丸味を帯ぶる扇形を呈して對生し、平行脈を有して多數の葉を生ず。春期五月頃葉間より花梗を抜き一個の大なる花を開く。

花は頗る奇形にして他の蘭科植物と異り花唇は極めて大きく袋状をなして垂下し、恰もスリッパの先端の如く、爲に *Ladies Slipper* なる英名を生ずるに至れり。花唇の外部は暗しき帶黃紫紅色をなし其の開口部は皺を生じて内方に捲込み、裏面には紫褐色の斑點を生ず。背瓣は稍大きく、二個の翼瓣は披針形をなし、下瓣と共に黄淡黄綠色を呈せり。雄蕊三個なれど中央の一個は多く不完全にして側方なる一對のもの完全にして花柱の内側に閉着せり。花柱は一個にして花唇の上方部にもあり花唇の方に彎曲し、柱頭は三部に分れ略は同大形、花軸と殆ど平行をなせり。子房一室にして種殻は薄し。

本種は觀賞用として栽培せらるる事あり。

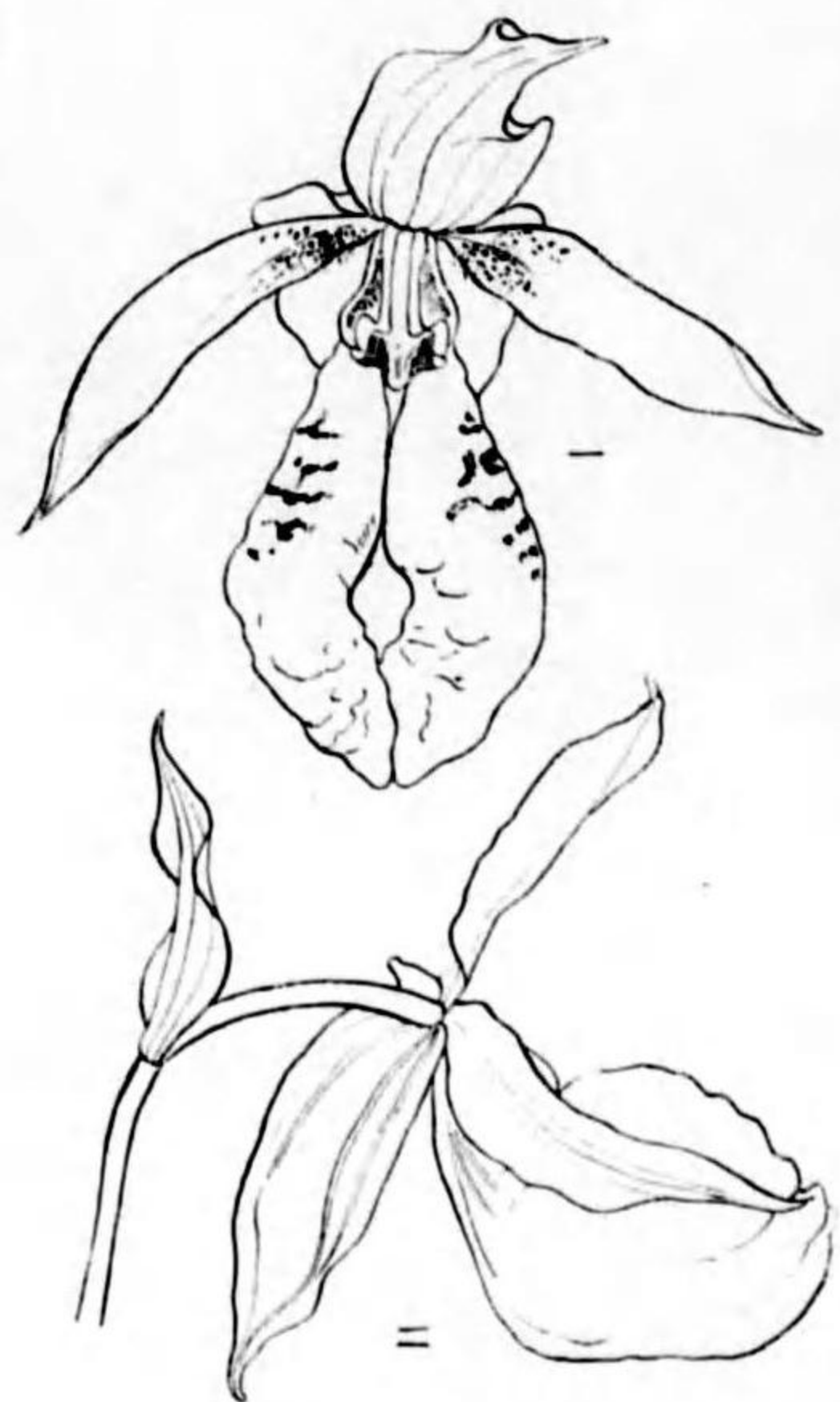
備考

一、學名なる *Cypripedium* は *Kypris* 及 *podium* 二語よりなれるものにして花形に依り命名せられたるものなり。

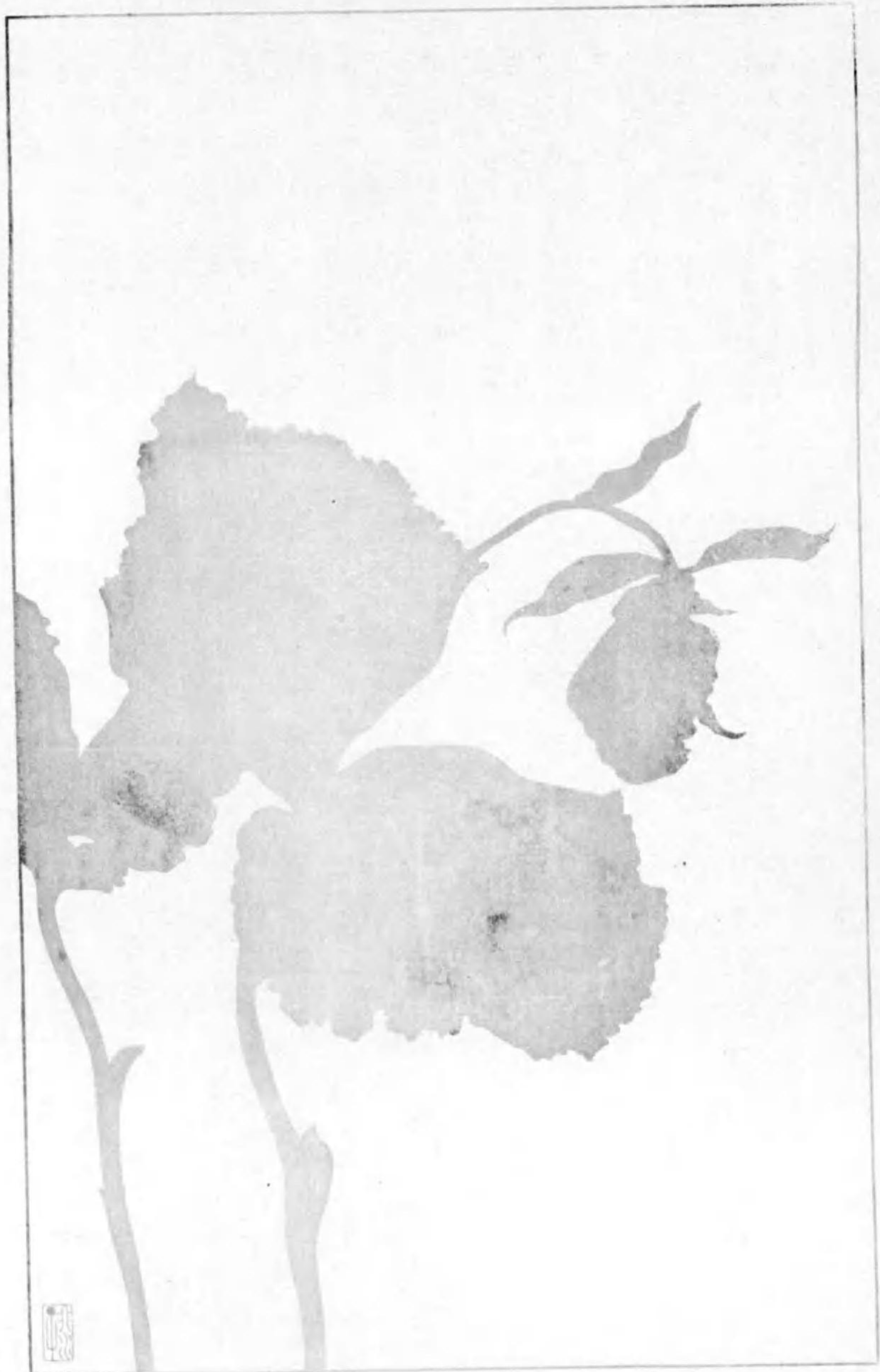
本圖 大正十年五月四日東京に於て寫生 (自然大)

附圖 (一)花の正面、(二)花の側面、(全部自然大)

寫真 大正十年五月東京に於て著者撮影

















求 正 著  
大倉 洋行  
東京 日本橋區  
本町二丁目  
電話 五五五  
五五五

終